



## 相生祭



### Contents

- 特集 1 第53回相生祭 … 2～5
- 特集 2 ようやく再開!! 現地での地域連携活動 実施報告 … 6～7
- 特集 3 活躍する大学教員 … 8
- 学園各部報告 … 9～11
- 同窓会だより／マーガレット募金… 12



見つめる人になる。見つける人になる。



相模女子大学

## 特集1

## 第53回相生祭



〈統一テーマ〉 Restart 〈開催期間〉 2022年11月3日(木・祝)・4日(金)

第53回相生祭が11月3日(木・祝)、4日(金)に感染症対策を講じたうえで開催されました。対面での実施は3年ぶりとなり、2日間で延べ約19,000名以上の方々にご来場いただきました。幼稚部から大学までが一堂に会する開会式にはじまり、毎年恒例の市中パレードや、小学部や中・高等部によるグランドドリル、各部の模擬店や展示、講演等、様々な催しが行われました。2日間とも晴天に恵まれ、4日の夜には美しい花火が打ち上げられ、相生祭を盛大に締めくくりました。



5月、私は初めて模擬や展示団体、そして他の実行委員と出会いました。「今年は対面で開催できるのか」「中止になることはないのか」。飛び出した言葉はどれも不安や焦りばかりで、これまで積み重ねてきた努力を一瞬にして奪われた3年前のこと思い出しているかのようでした。頑張つても無駄である。皆の表情からそんな無力感を感じました。新型「コロナウィルス感染症による行動制限で真っ先に不要不急の扱いを受けたのが学園行事です。しかし、私は人々が失望に満ちた今こそ学園祭が必要ではないかと考えていました。この考えが正しかったことは相生祭当日に証明されました。たくさんの学生・地域の方がこの学園に帰ってきたのです。笑い声が飛び交ういのちよ並木を歩きながら、密接を避けて生活する毎日を寂しさを感じていた自分に気付きました。一番中、ふと周りを見渡してみました。大学祭実行委員会委員長は私一人だけです。でも、こんなにも多くの仲間たちがいます。相生祭に希望を与えたのは私の方かもしません。

大学祭実行委員会  
委員長 向井 あづ希



今年度の相生祭は、新型コロナウイルス感染症の影響もありましたが、3年ぶりに対面開催することが出来ました。まずは対面での開催にご尽力下さった学生の皆様、学園関係者の皆様、心より感謝申し上げます。今度は、相生祭を新しく創り、手探りしながらの活動でした。だからこそ、共に支え合い、役員一同丸となって相生祭に取り組むことが出来たと思っております。また、2日間にわたりて、「相生祭を楽しみにしていたよ!」というお声がけを多くの方々からいただきました。いつも以上に人で活気に溢れた相模女子大学で幸せな時間を過ごすことが出来ました。

来年度もとのような情勢であるか分かりませんが、今年以上の相生祭になるよう尽力致しますので、来年の相生祭もどうぞ期待ください!

相生祭実行委員会  
委員長 田中 梨鼓



## 〈大学・短期大学部〉

大学・短期大学部では、イベントをはじめ、各クラブやゼミなどの団体が展示・発表を行い、日ごろの活動を見ていたきました。銀杏並木に並ぶ模擬店では、人気店に行列が見られました。秋晴れの下、グラウンドステージではジャズ研究部や舞踏研究部、アイドル研究同好会やダンスクラブ「EASTER」が練習の成果を披露しました。また、生活デザイン学科・相模原市消防局・相模原市防災協会による「Kid's & Lady's 防火衣」のファッショショーや試着体験も大変好評でした。学園キャラクターのさがつぱ・ジョーも登場し来場者の皆さんと触れ合い、大人気でした。

(総務課)



## 地域から日本の『食』を拓げよう

地域との交流事業や体験学習、地元の農産物を使った商品開発などを通して、本学の地域連携の輪が日本各地へと拡がっています。

相生祭で開催される「地域物産展」は、食を通して地域の活性化をめざすイベントとして 14 回目の開催を迎えることができました。3 年ぶりの対面開催となつた今年も、学生が「学びの場」として活動している地域や企業にご参加いただき、農産物や海産物、スイーツなど、各地域の魅力ある特産品を来場された皆様へお届けすことができました。また、大学の歴史を地域の方々へ知つていただきイベントとして、「地域物産展 & サガジョ歴史ツアーア」案内所を設置し、歴史マップの配布や学内ツアーを実施しました。

(連携教育推進課)

## 第14回 地域物産展



## 【中学部・高等部】 地域に“密”な相生祭

久しぶりの対面開催の相生祭でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、神奈川県は文化祭における生徒調理を禁止しました。高等部では少しでも相生祭を盛り上げるため、地元商店街とコラボして食品販売を行いました。4日には地域の保育園の子どもたちを招待することができ、【地域に密着した相生祭】を実施することができました。



子どもたちも楽しんでくれました



相模原市南区区長と



どのテントにも行列が!!

相生祭のホームページに各団体、部活や有志の団体などの映像が掲載されましたが、ほとんどの生徒はその内容を知らないまま、あるいは相生祭がそのような形で行われていたことさえ知らないまま、昨年度の相生祭は終わりました。その経験から当時高等部1年生だった相生祭運営委員内で、来年こそは対面で開催出来るよう頑張ろうと決意を固めました。その言葉通り、今年度は対面での相生祭を開催することが出来ました。

私たち自身も初めての対面開催の相生祭で楽しみよりも焦りや戸惑いの方が大きかったです。しかし、仕事を進めていくにつれて、相生祭運営委員内で団結力ができ、先輩たちにただ着いて行っていた昨年度に比べ、私も含め全員が自ら進んで行動していくようになりました。それに伴って、責任感、そして大きな達成感を得ることが出来ました。良い思い出として、この先の自分がなる貴重な経験になりました。

（相生祭運営委員会委員長 高等部2年 今野万凜）

相生祭のホームページに各団体、部活や有志の団体などの映像が掲載されましたが、ほとんどの生徒はその内容を知らないまま、あるいは相生祭がそのような形で行われていたことさえ知らないまま、昨年度の相生祭は終わりました。その経験から当時高等部1年生だった相生祭運営委員内で、来年こそは対面で開催出来るよう頑張ろうと決意を固めました。その言葉通り、今年度は対面での相生祭を開催することが出来ました。

私たち自身も初めての対面開催の相生祭で楽しみよりも焦りや戸惑いの方が大きかったです。しかし、仕事を進めていくにつれて、相生祭運営委員内で団結力ができ、先輩たちにただ着いて行っていた昨年度に比べ、私も含め全員が自ら進んで行動していくようになりました。それに伴って、責任感、そして大きな達成感を得ることが出来ました。良い思い出として、この先の自分がなる貴重な経験になりました。



いらっしゃいませ～!!

私は昨年度に引き続き、相生祭運営委員として活動してきました。

対面での開催が叶わなかつた昨年

度の相生祭では、現高等部3年生である先輩方が悔しい想いをしたのを見

てきました。途中まで対面での開催ができると信じ、各クラスへの協力依

頼が始まつていました。しかし、オンライン授業になり、それが長引き、対面で開催したいという願いと共にこのまま対面での開催が出来るのか不安に思っていました。

不安な気持ちがなくなる様子もなく、期待とは裏腹に比例するよう世の中の情勢は悪化していきました。その後、約2年ぶりに行なう予定だった対面開催の相生祭は行われることなく、終わつてしましました。

相生祭のホームページに各団体、部活や有志の団体などの映像が掲載されましたが、ほとんどの生徒はその内容を知らないまま、あるいは相生祭がそのような形で行われていたことさえ知らないまま、昨年度の相生祭は終わりました。その経験から当時高等部1年生だった相生祭運営委員内で、来年こそは対面で開催出来るよう頑張ろうと決意を固めました。その言葉通り、今年度は対面での相生祭を開催することが出来ました。

私たち自身も初めての対面開催の相生祭で楽しみよりも焦りや戸惑いの方が大きかったです。しかし、仕事を進めていくにつれて、相生祭運営委員内で団結力ができ、先輩たちにただ着いて行っていた昨年度に比べ、私も含め全員が自ら進んで行動していくようになりました。それに伴って、責任感、そして大きな達成感を得ることが出来ました。良い思い出として、この先の自分がなる貴重な経験になりました。

私は高校1年生の4月から相生祭運営委員として活動してきました。

昨年は対面開催の予定で準備を進めていましたが、オンラインとなつてしまい悔しい想いをしました。その時に委員長の今野さんと「来年は絶対に対面でやろうね」と約束をして、新しい運営委員のメンバーも増えて活動を進めました。

相生祭の2週間前には高等部の中間試験もあり、学校が相生祭ムードになつていない中、私たち運営委員はかなり焦つしていました。

自分たちも経験のない対面での相生祭を、ちゃんと想像できないまま準備が進んでき、今思えば、もつとこうすればよかつたんじやないかと思うことがたくさんあります。この反省点は、来年の運営委員に引き継ぎをして活かしてもらおうと思います。

相生祭の2日間はすごく長いようであつという間でした。朝からずっと同じ呼びかけをして回つて、気がついたら写真なんて撮っている暇もなく相生祭が終わつていましたが、先生方や商店街の方々、保護者の方々などたくさんのおかげで相生祭が開催できることを実感することができてとてもいい経験でした。

今まで1つのことのためにこんなに長い時間をかけて準備をしてきたことがありませんでしたし、人前に立つて話す経験もありませんでした。この経験は私にとって大きな自信となりました。無事に終わつて本当に良かったです。

協力してくださった皆さん、来場者の皆さん本当にありがとうございました。

（相生祭運営委員会副委員長 高等部2年 中谷葵）

相生祭運営委員会  
(左) 今野 万凜 委員長  
(右) 中谷 葵 副委員長

## 小学部 再び、受け継がれた 小学部の伝統のバトン

3年ぶりに本格的な形で開催された相生祭、小学部では、3日の午前中に鼓笛パレードとグランントドリル、午後に小学部視聴覚ホールで5年生による劇発表が、4日の午前中に1年生と3年生による劇発表、午後に体育館で2年生、4年生、6年生による合唱発表が行われました。

小学部の子どもたちにとって、「鼓笛パレード」は、入学したころからの憧れの晴れ舞台です。6年生の鼓笛演奏に合わせて、1、2年生はピアノを、3、4年生はソプラノリコーダーを、5年生はアルトリコーダーを演奏します。そして、6年生は、5年生の時から担当楽器を決め、鼓笛練習に取り組んできました。3年ぶりに市中パレードの開催が決定した時の6年生の喜びは、大きなもので、毎週火曜と木曜の朝練習以外の休み時間にも自分たちで声を掛け合い、自主練習に励む前向きな姿は、指導する教員の目に頼もしく映りました。今年度の演奏曲は、伝統の曲として先輩から受け継がれ毎年演奏している「こんにちはトランペット」に加え、「銀河鉄道999」と「ザザエさん」の3曲です。時には、テンポが速くなったり、音がずれてしまったりする時もありましたが、練習を積み重ねるにつれ、音が揃い、力強い演奏になりました。そして迎えた本番当日は、

秋晴れの澄み切った青空の下、沿道に駆けつけてくださった方々に見守られる中、6年生を中心に行なわれた鼓笛演奏は素晴らしいものでした。演奏を終えた直後、主指揮を務めた児童の挨拶に込められていていたのは、市中パレードをやり遂げた喜びと自分



3年ぶりの市中パレードへ出発

ちを支えてくださった全ての方への感謝の言葉でした。その言葉を聞いていた下級生、小学部の伝統のバトンが確かに受け継がれた嬉しい瞬間でした。

発表会では、1、3、5年生が学級ごとに劇発表を、2、4、6年生が学年での合唱を行いました。自分の役になりきり、気持ちを台詞にのせて、仲間と劇を作つていくことや、聴くことを大事にし、心と声を合わせて歌つて1つのハーモニーをつくることは、学級づくり、学年づくりにつながっていきます。子どもたちは、自分たちのクラスの劇や合唱発表に誇りを持っています。それは、子どもたちが発表会をよいものにしようと努力してきた表れであります。本番を終えて舞台から降りてくる子どもたちの笑顔は、表現を楽しんだ達成感に満ちていました。感動で、目頭を熱くしていらっしゃる保護者の皆様の涙や教員の大きな拍手は子どもたちの底力が引き出されたものです。最後になりますが、今年度もPTA活動で保護者の皆様に相生祭を支えていただきました。また、鼓笛パレードの警備などボランティアのご協力もいただきました。誌面をお借りしましてお礼申し上げます。

(小勝)



1年生劇発表



6年生の晴れ舞台



3年生劇発表



2年生の合唱発表

## 認定こども園 幼稚部 待ちに待った相生祭

3年ぶりに開催された相生祭、幼稚部は開会式に年長組が参加しました。

年長組の子どもたちは幼稚部の代表として開会式に参加出来たことを嬉しく感じていました。入場前は小学部の鼓笛隊の演奏に手を叩いたり、身体を動かしたりしながら見ていました。入場行進では少し緊張しながらも保護者や先生たちに手を振ったり、笑顔で楽しんでいました。相生祭の歌も元気に上手に歌えていました。開会式後は学生が行う各模擬店会場を見ながら、「あれ食べたい!」「楽しそうだね!」と友だちと笑顔で話したり、消防車が停まっているのを見つけると「一緒に写真撮りたい!」と胸を躍らせワクワクしている様子が見られ、子どもたちの笑顔いっぱいの楽しい雰囲気に包まれた一日となりました。

(黒部)



相生祭の歌「希望をめざして」が  
青空にひびいていました



プラカードをもつた学生の後ろに  
続々、かつこよく入場しました

# 現地での地域連携活動 実施報告

5月～6月の期間、地域連携活動として学生たちが各地域を訪問し、それぞれの地域との協働活動を実施しました。近年、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響によってオンラインでの活動を余儀なくされる状況が続いておりましたが、この度ようやく現地を訪問し、実際に地域の方々との交流を通して田植え作業などの体験活動をする事が出来ました。

## 【おつきりんピック宣伝部】 群馬県富岡市を訪問しました



おつきりんピック宣伝部の学生



蚕の桑くれ（餌やり）

おつきりこみ

5月28日（土）～29日（日）の2日間、「おつきりんピック宣伝部」の学生5名が群馬県富岡市を訪問し、おつきりこみの調理・蚕とのふれあいを体験しました。NPO法人ふれあいパーク岡成の方々と、28日（土）は世界遺産の富岡製糸場や貫前神社などを訪問しました。また、古民家「Gハウス」に宿泊し、今後の活動内容について意見交換を行いました。翌29日（日）はおつきりこみの調理と天蚕の山付け（野生の蚕の卵を桑の木に付ける作業）・蚕の桑くれ（餌やり）を体験しました。



もとみやSMILEプロジェクトの学生



田植え作業の様子

## 【もとみやSMILEプロジェクト】 約2年ぶりに 福島県本宮市を訪問しました



梅の実収穫の様子



仕込み作業の様子



今年販売された梅酒

2日目は、市内にある本学専用農園「マーガレットファーム」にて、農家の方々の指導を受けながら田植え体験や野菜の苗植えの体験を行いました。田植え体験は初体験の学生が多く、貴重な体験となりました。

5月28日（土）～29日（日）の2日間、「もとみやSMILEプロジェクト」のプロジェクトメンバーが福島県本宮市を訪問しました。新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響もあり、なかなか現地に行けませんでしたが、約2年ぶりに訪問することができました。1日目は放射線量の測定や福島県の食の安全性を学びました。また、市内の農家民宿にお世話になり、安心、安全の新鮮な野菜をふんだんに使用した夕食をいただきました。

## 【産学連携】 本学の梅を使用したオリジナル梅酒 「翠想」が完成し販売されました

本学で収穫した梅を使って作られるオリジナルの梅酒造りは、今年で8年目となります。

梅の実の「翠」と、本学で学ぶ学生たちの「想い」を込めて「翠想（すいそう）」と名付けられ、例年、梅の収穫から、仕込み、ラベルのデザイン、ラベルの貼付けまで、それぞれの製造工程に学生が携わってきました。本年も6月上旬、新型コロナウイルス感染症感染拡大状況に鑑み、感染予防対策を徹底した上で事前に募集した学生約60名と教職員により、学内にある梅の木から実の収穫作業が行われました。その後、相模原市内の久保田酒造株式会社へ運ばれ、社会マネジメント学科の学生6名と食物栄養学科の学生2名によつて仕込み作業が行われました。

収穫作業では初めての作業にも関わらず長い棒を使いこなし、実を落とす人、実を拾う人にわかれ、協力して作業をしました。仕込み作業では梅の実を洗う作業、

**【丸山千枚田魅力発信プロジェクト】**  
**築地場外市場にて熊野唐辛子のPRイベントに参加しました**

6月11日(土)、丸山千枚田魅力発信プロジェクトのメンバー3名が築地場外市場にて熊野唐辛子試食販売PRイベントに参加しました。



震災当時の状況を伺う様子

6月4日(土)～5日(日)、約半年ぶりに大船渡を訪問しました。今回は「大船渡の震災・復興の記憶を学ぶこと」「大船渡をPRするVlog作成の為の材料集め」の2つを目的として訪問しました。「震災・復興の記憶」に関しては、現地の震災について学ぶことの出来る施設を訪れ、震災を経験した語り部の方のお話を伺い、間近に押し寄せる津波の動画を視聴しました。実際に動画で見た場所を訪れ、復興に想いを寄せることが出来ました。「Vlogの材料集め」に関しては、様々なお店への訪問により新たな大船渡の一面を数多く発掘できました。現地のお店や商業施設で出会ったどの方も優しく温かく迎えてくださり、皆様のお人柄も大船渡の魅力の1つであると委員会メンバー一同感じることができました。

**岩手県大船渡市を訪問しました**  
**【復興支援学生ボランティア委員会】**

ヘタを取る作業、漬け込み作業などそれぞれの工程にわかれで作業を行いました。普段の学生生活では、めったに経験できない酒造体験に学生同士協力しながら楽しめました。完成した梅酒は公益社団法人相模原市観光協会が運営する、さがみはらアンテナショップ「sagamix」にて販売されました。



事前練習の様子



撮影本番の様子

**【丸山千枚田魅力発信プロジェクトと「もとみやSMILEプロジェクト」で発表を行いました】**

後援会の会員の皆様に向けて本学や学生の取り組みを紹介する、「教育懇談会オンライン」が6月28日(火)に公開されました。社会貢献活動のパートでは、「丸山



試食の仕込み作業の様子



試食販売の様子

今回のイベントは熊野市役所の方と事業者さんが企画され、有名シェフが作る熊野唐辛子を使用した料理を、お客様に試食していただき、熊野唐辛子の商品のPRを行いました。現在のプロジェクトメンバーになってから初めてのPR活動でしたが、接客や試食販売を通して多くのお客様と接し、唐辛子や熊野市の魅力を発信することができました。また、知らなかつた知識や発見をお客様から学ぶこともあります、今後の活動に繋げていきたいです。

丸山千枚田魅力発信プロジェクト」と「もとみやSMILEプロジェクト」の学生が動画撮影に参加し、それぞれ10分程度活動紹介をしました。「丸山千枚田魅力発信プロジェクト」では5月に3年ぶりに三重県熊野市を訪問し、現地の方々との交流や田植えの体験を発表しました。「もとみやSMILEプロジェクト」ではオンラインを活用した福島県本宮市のPR活動や、約2年半ぶりに訪れた現地での体験を発表しました。

**【産学連携活動】**  
**「相模女子大学コラボパンフェア」**

**学生・生徒が考案したパンを復刻販売しました**

本学と株式会社東京ポンパドゥルは、2015年より学生考案のレシピを商品化する取り組みを行っています。この度、期間限定で過去に商品化された4作品が、ポンパドゥル町田店にて復刻販売されました。



**夢をかなえるセンター連携教育推進課の公式SNSが誕生しました!**

この度、夢をかなえるセンター連携教育推進課の公式SNSが誕生しました。「Sagami-Charenjiブログ」の情報報や活動の様子をリアルタイムに発信していきます。お気軽にフォローください。



公式Twitter:  
@sagajo\_yumekana



公式Instagram:  
@sagajo\_yumekana



公式YouTube:  
「相模女子大学連携教育推進課」

## 特集3

## 活躍する大学教員

本学の教員は学園内にとどまらず幅広い領域で活躍されています。  
その一部をご紹介します。

### 角田千枝教授の「歩行者の服装色に関する調査結果」が特別研究員を務める日産自動車「交通安全未来創造ラボ」のホームページにて紹介されました

生活デザイン学科の角田千枝教授が特別研究員を務める日産自動車「交通安全未来創造ラボ」<sup>(\*)</sup>の研究通信に、「歩行者の服装色に関する調査結果」が掲載されました。

この調査結果は、角田教授を中心となり、交通事故防止のために、歩行者の外出時の服装色について調査したものです。歩行者はドライバーからいち早く発見されるよう明るい色の服装で外出することが推奨されていますが、これに対し、現状はどの程度目立つ服装が着用されているのか、アンケート等を通じ研究しました。その後も外出着の視認性について、実証実験等を含め検証を進めています。(生活デザイン学科)

(\*)日産自動車による「交通安全未来創造ラボ」とは、高齢ドライバーや幼児・児童・公共交通機関が不足し過疎化に悩む人々、訪日外国人など、生活や移動に不安や不自由を抱えている一人一人に寄り添い、交通事故事故ゼロ、誰一人取り残すことのないドライバーシティ(多様性)交通安全を実現するために多岐にわたる専門領域を越境し、連携を実現するために立ち上げた研究所です。



通勤時によく着られている服装色  
—コートの男女差—(n=3000人:男女各1500人)

### 駐日アイルランド大使主催によるピーター・J・マクミラン客員教授の出版記念パーティーが開催されました

ピーター・J・マクミラン客員教授の書籍『松尾芭蕉を旅する 英語で読む名句の世界』(講談社刊)の出版を記念し、7月11日(月)にマクミラン客員教授の母国であるアイルランド大使主催の出版記念パーティーが大使公邸において開催されました。

当日は、ポール・カヴァナ大使(当時。現アイルランド外務省儀典長)のご挨拶とマクミラン客員教授によるプレゼンテーションが行われ、各界から多くの方々がお祝いに駆けつけるなど和やかなパーティーとなりました。

(学事企画課)



前駐日アイルランド大使ご夫妻と歓談 本学関係者で記念撮影

### 小泉京美教授が「かながわ県民スポーツ祭」において、聖火ランナーによるリレーイベントに参加しました

8月20日(土)、神奈川県立スポーツセンターにて「かながわ県民スポーツ祭」が開催され、東京2020オリンピックで聖火ランナーに選出された英語文化コミュニケーション学科の小泉京美教授が、聖火リレーイベントに参加しました。



小泉ゼミ卒業生と一緒に走りました

参加した24名の聖火ランナーが自由に楽しみながら400メートルトラックを半周ずつ走ることができ、小泉教授は応援に来たゼミナールの卒業生と一緒にトラックを走りました。

(英語文化コミュニケーション学科)

### 九里徳泰教授がFMヨコハマ「Keep Green & Blue」に出演しました

英語文化コミュニケーション学科の九里徳泰教授が、FMヨコハマ「Keep Green & Blue」に出演しました。

7月4日(月)～7日(木)の23時20分～23時30分に、全4回にわたって放送されたラジオ番組で、『国連SDGs(持続可能な開発目標)』をトークテーマに、2021年4月に出



SDGs のお話をしました

版した「みんなでつくりろう！ サステナブルな社会 未来へつなぐSDGs(全3巻)」(小峰書店)からお話をしました。

(英語文化  
コミュニケーション  
学科)

### 金子修介客員教授が監督した映画『信虎』がマドリード国際映画祭2022において「外国語映画部門 最優秀監督」を受賞しました

7月23日(土)、スペインで「マドリード国際映画祭2022」の授賞式が行われ、本学の客員教授である金子修介監督の映画『信虎』(宮下玄霸氏と共同監督)が、「外国語映画部門 最優秀監督」と「ベストコスチューム」の2部門を受賞しました。



金子修介客員教授

この映画は、有名な武将、武田信玄の父・武田信虎の生き様を描いた時代劇映画で、2021年10月に公開されました。武田信虎の晩年から武田家の滅亡までの時代背景が細かく再現された作品です。

(学事企画課)

# 学園各部 報告

## 大学院・大学・短期大学部

### 認知症カフェ 「さがつばと Tea Time」を開催しました

#### 学園

田畠雅英学長らが相模原市役所を訪問しました

5月28日(土)、本学 Tea Lounge 2002にて、社会福祉士課程の学生と教員が、相模原市の中の有志の仲間たちと一緒に、認知症カフェ「さがつばと Tea Time」を開催しました。

本企画は3年前にオープンした直後コロナ禍に見舞われ、オンラインでの活動を余儀なくされました。が、今回2年ぶりの対面開催を果たす

7月27日(水)、田畠雅英学長と有田雅一夢をかなえるセンター部長が相模原市役所を訪問し、大川亜沙奈副市長に面会しました。

また、2025年に創立125周年を迎えるにあたり、相模原市との連携

(総務課)

田畠学長から大川副市長へ、生涯学修の内容を中心に、本学の取り組みについて紹介をいたしました。



相模原市との意見交換の様子



左:大川亜沙奈副市長 右:田畠雅英学長



### 「クラブ紹介 Weeks」を開催しました



「さがつばと Tea Time」看板

と笑い声に包まれた、実際に楽しめた。温かい笑顔



さがつばとを囲んで記念撮影

れた、ひとときとなりました。

(社会マネジメン  
ト学科・奥貫)

### 高等学校3校と教育交流に関する包括協定を締結しました

本学は、双方の教育機能について交流・連携を深めることによって、高校生の学びの視野を広げ、お互いの教育活動の活性化を行うことを目的に、高等学校3校と包括協定を締結しました。

この協定によって、新しい教育への興味を引き出す機会の提供や、進路意識の向上を高める交流・連携活動を行ってまいります。

(包括協定を締結した高等学校)  
学校法人高木学園 英理女子学院高等学校  
学校法人湘南工科大学 湘南工科大学附属高等学校  
神奈川県立藤沢清流高等学校

(入試課)

### 学生8名が岩手県下閉伊郡岩泉町の視察を行いました

6月27日(月)～7月1日(金)の期間、本学3号館ロビーにて「クラブ紹介 Weeks」を開催しました。この企画は、クラブ活性化プロジェクトメンバーと各クラブの部長たちの「もっとクラブについて知つてしまい!」という想いから、クラブ紹介イベ

トとして実施されました。

舞踏研究部、ア

イドルダンス同好会からは華麗なダンスが、マンドリンクラブ、吹奏楽部、ジャズ研究部から

は個性豊かな演奏が披露され見学した学生たちからは大きな歓声と拍手が送られました。



吹奏楽部による演奏の様子

岩泉町役場への表敬訪問や、伝統的な豆腐作り体験、伝統食体験、薪割や材木工場、家具工場・酒造の視察を行い、住民の方々との交流を深めるなかで、様々なご意見やご要望を聞くことが出来ました。また、岩泉町が具えている素晴らしい自然と伝統・歴史を学び、住民の方々の優しいお心遣いも感じるところが出来ました。

(生活デザイン学科・柴田)

### 神奈川県立総合教育センターとの連携修講座「生きる力を育む—探究型学習と最新キャリア教育のつながり」を開催しました

8月18日(木)、神奈川県立総合教育センターとの連携修講座「生きる力を育む—探究型学習と最新キャリア教育のつながり」を開催しました。

主に中学校・高等学校教諭を参加対象として、高等学校の「総合的な探究の時間」における学びを大学が行う「キャリア教育」にどのようにつなげるかについて、多角的に議論し、応用力を身につけるための教育方

法やカリキュラム設計等について考察しました。今回は本学を会場とした対面型と、WEB会議システム「Zoom」を活用したオンライン型の併用で開催し、60名以上の参加がありました。



泉金酒造視察



伝統的な豆腐作り体験

本学英語文化コミュニケーション学科の小泉京美教授が進行役となり、第1部では、株式会社リアセックの酒井陽年氏による『高校生・大学生が身につけるべき社会人基礎力とは』の講演、第2部では、県内の公立・私立高等学校の3名の先生方による各校の事例紹介とパネルディスカッションの他、本学学生による『アクティブラーニングによる自己成長』の発表が行われ、参加者からの質疑応答と活発な議論が交わされました。(生涯学修支援課)



準備体操

## 中学部・高等部

### 2022年度 中学部・高等部体育祭

去年の体育祭は高校2学年のみの参加でしたが、今年は中高6学年約1,200人の参加となる体育祭を実施することができました。また、保護者の皆様も観戦するということもあり、たくさんの応援が見受けられました。私達高校3年生は学年種目として仮装行列を行い、各クラステーマを決め衣装や小物などを準備して各クラスおそろいのものを装飾したりして、女子校ならではの体育祭になりました。ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の流行によつ

て学校行事ができないことが多くあります。今年はこのような体育祭ができて嬉しいです。最高な体育祭をありがとうございました。

(体育祭実行委員長 高等部3年 江上桃奈)

### 中学部3年 社会見学

10月12日(水)、中学部3学年は九段下にある「昭和館」「しょうけい館」に出かけました。太平洋戦争に関する展

示を見学し、戦争や戦時下の暮らしについて理解を深めるとともに、過去の歴史から、現在の社会の在り方や平和な未来について考えることを目的としています。入学時からコロナ禍にあつた3年生にとって、校外での班別行動も新鮮な体験です。広島に出かける

に、自身で立てた計画に則つて主体的に行動する経験にもなりました。

(中学部・堤)

8月24日(水)に令和4年度第1回高等学校軽音楽コンテスト関東大会が開催され、本校軽音楽部から中学3年生4名、高校1年生1名の中高混合バンド「Nuts」が出演しました。この大会は「同一の部活動に所属していれば中学生もり、迷わずエントリー。動画審査で神奈川代表に選出されて出場が叶いました。



表彰後の1コマ



演奏中の様子

### 軽音楽部 第1回高等学校軽音楽コンテスト関東大会出場

### 2022年度 中学部・高等部

これからはどんなことがあっても諦めずに、まずはチャレンジしてみようという気持ちが大事だと思いました。

(中学部1年・アルフイン里桜菜)



ジャイアントシーソー

### 子どもたちの読書意欲を高めるために

### 小学部

子どもたちがお気に入りの本を紹介

小学部では、年間を通して、子どもたちの読書欲を高めるための取り組みが行われています。

全校共通で取り組んでいる活動が本の紹介カードを書く活動です。お気に入りの本を友だちに紹介するためのカードを書く活動で、廊下には、児童が書いた「本の紹介カード」が掲出されています。

また、国語の授業を通して、読書へつなげる取り組みも大切にしています。

4年生では、国語の教科書にあら「ランドセルは海を越えて」というノンフィクションのお話



TPシャッフル



振り返り

私は普段、できなそなうだなど感じたことはチャレンジしませんでした。このPAの時も一緒に、無理だ



4年生の本の帯

なと思っていたけれど、勇気を出してやつてみたら全うまくいきました。したがって、この「こわい」という気持ちが、私の心の壁だったのではないかと思

ます。

これからはどんなことがあっても諦めずに、まずはチャレンジしてみようという気持ちが大事だと思いました。

(中学部1年・アルフイン里桜菜)

本を読み、本の帯を作る活動を行いました。本の良さをキヤッコピーと短い言葉でまとめて、本のあらすじを紹介していくます。この本の帯を作ることによって、本を読むきっかけとなり、作る過程で読解力も身につくと考えています。



図書館クイズ



図書室季節の本の紹介コーナー

保護者の皆様による図書ボランティアの活動

子どもたちの読書欲を高めるために保護者の皆様による図書ボランティアの活動があります。図書ボランティアに所属している方は、現在36名。図書室の環境整備や飾り付け、貸し出しの手伝い、そして、本の読み聞かせ活動などを行っています。



5年生の本の紹介カード

（杉山）  
児童が本を読んでクイズの入ったポスターが掲出されています。その本を読んでクイズ

10月は、ハロウィンを意識した飾りつけが図書室にされて、魔女をテーマにした物語のコーナーも設けられました。また、各階の廊下には、学年に応じた本の紹介とその本



4歳児さく組



1歳児りんどう組

10月15日(土)に作品展が行われました。

### 作品展

#### 認定こども園 幼稚部

ズに答えることでプレゼントがもらえるというようなおまけ付きです。子どもたちの読書欲を引き出す、保護者の皆様のアイデア満載です。

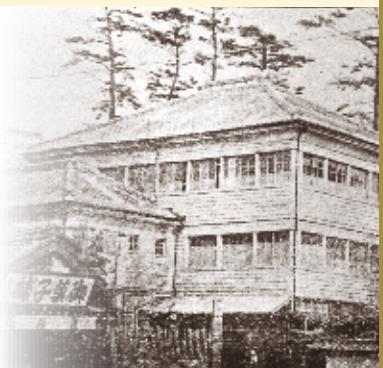
（澄井）

## 2025年、相模女子大学は創立125周年を迎えます。



**125th Anniversary**  
since 1900

2025年、相模女子大学は創立125周年を迎えます。



相模女子大学の歴史は、1900年に西澤之助により日本女学校が設立されたことに始まります。それ以後、建学の精神「高潔善美～固きこころをもって、やさしき行いをせよ～」のもと、我が国の女子教育のパイオニアとして多くの人材を社会に送り出してきました。

110周年時には、大学は「見つめる人になる。見つける人になる。」を教育スローガンに掲げましたが、「Sagami Vision 2020」の提示に合わせて学園全体の教育スローガンとなりました。

このスローガンに込められた思いは、自分たちの生活の足場をしっかりと「見つめ」、そこから新しい社会のあり方を「見つける」人を育てるというものです。建学の精神に高い人間性を希求する教養教育を現代的に表現しております。



## 冒険する演劇

澤藤 桂

(平成5年3月学芸学部国文学科卒業  
令和4年3月専門職大学院社会起業研究科修了)

今朝、岩手巡回公演の俳優4名とスタッフ2名を送り出しました。6人のメンバーは2週間に亘って岩手県内の小学校や中学校で演劇公演を行います。しかも岩手県内でも比較的不便な八幡平市や久慈市、洋野町などの小学校を中心にまわるのです。全校児童が50人以下の小学校も少なくありません。中には15人の小学校もあります。子どもたちはみんな、公演を楽しみにしてくれています。

この演劇公演は「文化芸術による子供育成推進事業」の一環として委託を受けて、もう5年以上行っています。今年は宮沢賢治原作の『どんぐりと山猫』と『オツベルと象』を観てもらいます。インターネットを活用すれば地方にいても様々な体験ができる時代になりましたが、それでも、同じ空間で俳優も観客も一体になったような空気に包まれる、そんな感覚を覚えることができるのです。やっぱり画面越しではなく実演です。特に地方の子どもたちは都会の子どもたちと違ってエンターテインメントに触れることがなかなかできないので、この岩手巡回公演は本当に貴重な体験の機会になっています。

とはいっても、この事業は予算規模が小さくて、俳優やスタッフへのギャラや宿泊費などが嵩んでしまい、いつも赤字になってしま



体験する童話劇『銀河鉄道の夜』

まっています。この事業以外にも、依頼があれば小学校公演を行っていますが、その場合も赤字になってしまうことがほとんどです。なんとか赤字をなくして「体験の格差」解消のための演劇公演を続けられないかと試行錯誤をしているときに、相模女子大学に専門職大学院の社会起業研究科が設置され、後先考えずに入学を決めました。平成5年に学芸学部国文学科を卒業していますので、27年ぶり2回目の相模女子大学での学生生活です。

これまで学んだことのない学問分野に悪戦苦闘しながら、なぜ私は演劇を続けているのかを徹底的に見つめなおした2年間でした。まだまだ先の先までは見通せていませんが、目の前に一本の道が続いているのだけはかろうじて見えるようになりました。大学院設置に尽力してくださった先生方のおかげだと感謝しています。

今年、新しい企画を始めました。大学院の学びの中でヒントを得た「体験する童話劇」です。子どもたちが俳優と一緒に本番の舞台に出演して歌ったり踊ったり台詞を言ったりします。非日常の中で、緊張や不安、葛藤など様々な感情を乗り越えていくのです。これはもう、体験というより冒険に近いかもしれません。

## ご寄付のお願いとお申込方法について

「マーガレット募金」を以下のとおり実施させていただいております。

ご支援いただきました皆様に対し、心より御礼申し上げます。

今後ともご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

マーガレット募金委員会委員長 竹下 昌之

	令和4年3月末現在	令和4年9月末現在
マーガレット募金額	60,429,773 円	64,744,917 円

### マーガレット募金

本学園の継続的な発展を目的とし、平成20年度に開設いたしました。使途について、「学習活動支援」「キャンバス整備」「教育・研究活動支援」よりご支援先を指定いただくことができ、また、「目的を指定しないご寄付」もお受けしております。

この中でも「学習活動支援」については、「大学・短期大学部」「中学部・高等部」「小学部」「幼稚部」と支援対象をより細かく指定することができます。

皆様からいただきましたご支援は、ご指定の使い道に従って有効に活用させていただいております。



**① お振込 (郵便局または銀行窓口)** **② 郵送 (現金書留) またはご持参** **③ 自動振替での継続**  
詳細につきましては、大学ホームページ (<https://www.sagami-wu.ac.jp/>) をご覧いただきか、下記事務局までお問い合わせください。

●マーガレット募金 お問合せ先 学校法人相模女子大学 学園事務部 経理課

〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 TEL:042-747-9558 FAX:042-749-6500 E-mail:bokin@mail2.sagami-wu.ac.jp

●その他奨学寄付金等のご寄付に関するお問合せ先

相模女子大学・相模女子大学短期大学部 大学事務部 学術研究支援課 TEL:042-747-9570 FAX:042-743-4916



学校法人 相模女子大学